



平成18年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成17年7月29日

上場会社名 富山化学工業株式会社

(コード番号:4518 東証第一部)

(URL <http://www.toyama-chemical.co.jp/>)

問合せ先 代表者役職・氏名 取締役 代表執行役社長 中野 克彦
責任者役職・氏名 執行役 経営企画部長 水野 淳一

TEL:(03)5381-3818

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
税金費用及び税効果会計については、法定実効税率をベースとした年間予測税率を用いて計算しております。
最近連結会計年度からの会計処理の変更の有無 : 無
連結及び持分法の適用範囲の移動の有無 : 無

2. 平成18年3月期第1四半期財務・業績の概況(平成17年4月1日～平成17年6月30日)

(1)経営成績(連結)の進捗状況 (注)金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
18年3月期第1四半期	3,829	69.1	1,550	-	1,630	-	1,625	-
17年3月期第1四半期	12,402	-	7,145	-	6,970	-	6,960	-
(参考)17年3月期	24,746		2,597		1,468		662	

	1株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
18年3月期第1四半期	8 27	-
17年3月期第1四半期	35 41	32 66
(参考)17年3月期	3 37	3 32

(注)1. 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年第1四半期増減率であります。

2. 平成17年3月期より第1四半期の開示を行っているため、平成17年3月期第1四半期の対前年第1四半期増減率は記載しておりません。

[経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期の売上高は38億29百万円となりました。

医療用医薬品の売上高は、他社への原薬及び製剤の売上が第2四半期以降にずれ込んだことにより前年に比べ若干減少しております。

大正富山医薬品株式会社は、昨年度後半から取り組んでいる「重点化と集中化」を基本に、重点薬剤に傾注した訪問宣伝活動の展開により営業活動の集中化を図ってまいりました。その結果、大正富山医薬品株式会社への医療用医薬品の売上高は、当第1四半期より販売中止した品目の売上減少の影響があるものの、ほぼ前年第1四半期実績と同様に推移いたしました。このうち、主力品の注射用ペニシリン系抗生物質製剤「ペントシリン」及び長期育成品のループ利尿剤「ルブラック」については売上を拡大いたしました。経口用セフェム系抗生物質製剤「トミロン」は市場競争激化の影響により売上は減少しております。

費用面については、計画と大きな乖離もなく推移いたしました。

しかしながら、通期では技術料収入を後半に見込んでいたことから、当第1四半期は営業損失15億50百万円、経常損失16億300百万円、四半期純損失16億25百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
18年3月期第1四半期	67,972	30,338	44.6	154 41
17年3月期第1四半期	81,278	38,316	47.1	194 90
(参考)17年3月期	64,763	31,897	49.3	162 33

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
18年3月期第1四半期	927	1,884	4,930	15,814
17年3月期第1四半期	1,010	575	24	16,546
(参考)17年3月期	4,561	1,231	8,893	13,662

【財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等】

財政状態の変動状況

当第1四半期末の総資産は679億72百万円であり、前連結会計年度末に比して32億9百万円増加いたしました。その主な要因としては、当第1四半期においてコミット型シンジケートローン(期間5年)契約による総額50億円の借入れを実行したためであります。

キャッシュ・フローの状況

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は当第1四半期において技術料収入の計上がなかったこと等により税金等調整前四半期純損失になったことから9億27百万円の支出(前年第1四半期10億10百万円の支出)となりました。また、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は有価証券の取得等により18億84百万円の支出(前年第1四半期5億75百万円の収入)となりました。

一方、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は長期借入金の実行等により49億30百万円の収入(前年第1四半期24百万円の収入)となり、その結果、当第1四半期末の現金及び現金同等物の残高は前連結会計年度末残高に比して21億52百万円増加し158億14百万円となりました。

3. 平成18年3月期の連結業績予想(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

通期の業績予想につきましては、当第1四半期における業績が概ね計画通りに推移しており現時点では、平成17年5月11日に発表いたしました業績予想から変更はありません。

上記の予想は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予想を含んで記載しております。実際の業績は、今後様々な要因によって上記予想とは異なる結果となる可能性があります。

添付資料

(要約)四半期連結貸借対照表、(要約)四半期連結損益計算書、四半期連結剰余金計算書
(要約)四半期連結キャッシュ・フロー計算書など

以上

1. (要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年3月 第1四半期末)	前年同四半期 (平成17年3月 第1四半期末)	増 減		(参考) 平成17年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
1. 現金及び預金	6,317	6,364	47	0.7	7,663
2. 受取手形及び売掛金	2,580	12,442	9,862	79.3	2,923
3. 有価証券	14,855	15,263	408	2.7	9,557
4. たな卸資産	8,143	10,572	2,428	23.0	8,242
5. 繰延税金資産	560	862	301	35.0	562
6. その他	1,395	1,961	566	28.9	1,728
貸倒引当金	8	15	6	44.4	8
流動資産合計	33,844	47,452	13,607	28.7	30,671
固定資産					
1. 有形固定資産	22,540	23,698	1,157	4.9	22,593
(1) 建物	7,447	7,818	371	4.7	7,467
(2) 機械及び装置	1,256	2,021	765	37.9	1,260
(3) 土地	12,712	12,794	81	0.6	12,727
(4) その他の有形固定資産	1,124	1,064	59	5.6	1,138
2. 無形固定資産	543	834	290	34.9	602
3. 投資その他の資産	11,043	9,267	1,776	19.2	10,895
(1) 投資有価証券	6,150	6,043	106	1.8	6,134
(2) 繰延税金資産	516	785	268	34.2	565
(3) その他	4,471	2,610	1,860	71.3	4,300
貸倒引当金	94	172	77	45.0	103
固定資産合計	34,127	33,800	327	1.0	34,092
繰延資産	-	25	25	-	-
資産合計	67,972	81,278	13,305	16.4	64,763
(負債の部)					
流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	3,189	2,957	231	7.8	3,238
2. 短期借入金	4,236	5,229	993	19.0	4,300
3. 一年以内償還予定の転換社債	-	7,941	7,941	-	-
4. 未払法人税等	37	11	26	233.1	141
5. 賞与引当金	458	418	40	9.6	233
6. 返品調整引当金	5	3	2	56.8	6
7. その他	979	1,833	853	46.6	1,204
流動負債合計	8,907	18,395	9,488	51.6	9,125
固定負債					
1. 社債	50	50	-	-	50
2. 長期借入金	14,473	9,479	4,994	52.7	9,473
3. 繰延税金負債	-	2	2	-	-
4. 再評価に係る繰延税金負債	2,448	2,468	19	0.8	2,450
5. 退職給付引当金	7,747	11,878	4,130	34.8	7,797
6. 役員退職慰労引当金	4	646	641	99.3	648
7. 連結調整勘定	4	-	4	-	4
8. 長期未払金	3,765	-	3,765	-	3,121
9. その他	232	41	191	464.9	195
固定負債合計	28,727	24,566	4,160	16.9	23,741
負債合計	37,634	42,961	5,327	12.4	32,866
(資本の部)					
資本金	22,400	22,397	2	0.0	22,400
資本剰余金	21,533	21,538	4	0.0	21,533
利益剰余金	12,934	5,037	7,897	156.8	11,310
土地再評価差額金	1,594	1,565	28	1.9	1,592
その他有価証券評価差額金	1,206	1,207	1	0.1	1,134
自己株式	273	224	49	22.1	268
資本合計	30,338	38,316	7,978	20.8	31,897
負債及び資本合計	67,972	81,278	13,305	16.4	64,763

2. (要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	当四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成17年3月期 第1四半期)	増 減		(参考) 平成17年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	3,829	12,402	8,572	69.1	24,746
売上原価	2,999	2,875	124	4.3	12,752
売上総利益	829	9,527	8,697	91.3	11,994
返品調整引当金繰入額	-	-	-	-	2
返品調整引当金戻入額	0	0	0	25.0	-
差引売上総利益	830	9,527	8,697	91.3	11,991
販売費及び一般管理費	2,381	2,382	1	0.1	9,394
営業利益又は営業損失()	1,550	7,145	8,696	-	2,597
営業外収益	107	62	45	71.8	576
1. 受取利息	13	12	1	7.9	83
2. 受取配当金	15	13	1	14.9	67
3. 為替差益	57	-	57	-	-
4. 受取保険金	0	10	9	99.8	24
5. 受取家賃	9	11	2	18.6	44
6. その他	11	15	3	22.2	355
営業外費用	186	236	50	21.1	1,705
1. 支払利息	113	108	4	4.4	429
2. たな卸資産評価損	32	69	36	52.4	855
3. 持分法による投資損失	3	1	2	241.6	-
4. その他	36	57	21	31.6	419
経常利益又は経常損失()	1,630	6,970	8,601	-	1,468
特別利益	8	-	8	-	940
1. 貸倒引当金戻入額	8	-	8	-	-
2. 過去勤務債務処理額	-	-	-	-	804
3. 転籍者に係る退職給付引当金取崩益	-	-	-	-	121
4. 固定資産売却益	-	-	-	-	14
特別損失	-	-	-	-	1,173
1. 厚生年金基金脱退時特別掛金	-	-	-	-	978
2. 転籍に伴う割増退職金	-	-	-	-	117
3. 固定資産売却損	-	-	-	-	77
税金等調整前四半期(当期)純利益 又は税金等調整前四半期純損失 ()	1,621	6,970	8,592	-	1,235
法人税、住民税及び事業税	3	10	7	71.7	24
法人税等調整額	0	0	1	-	548
四半期(当期)純利益又は四半期純 損失()	1,625	6,960	8,585	-	662

3. 四半期連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科 目	当四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成17年3月期 第1四半期)	(参考) 平成17年3月期
	金 額	金 額	金 額
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	21,533	21,530	21,530
資本剰余金増加高	-	7	2
1. 自己株式処分差益	-	6	-
2. 社債の転換	-	0	2
資本剰余金四半期末(期末)残高	21,533	21,538	21,533
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	11,310	11,997	11,997
利益剰余金増加高	1	6,960	689
1. 四半期(当期)純利益	-	6,960	662
2. 土地再評価差額金取崩額	1	-	26
利益剰余金減少高	1,625	-	2
1. 四半期純損失	1,625	-	-
2. 自己株式処分差損	0	-	2
利益剰余金四半期末(期末)残高	12,934	5,037	11,310

4. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当四半期 (平成18年3月期 第1四半期)	前年同四半期 (平成17年3月期 第1四半期)	(参考) 平成17年3月期
	金 額	金 額	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期純損失()	1,621	6,970	1,235
2. 減価償却費	271	356	1,283
3. 長期前払費用償却額	3	4	17
4. 繰延資産償却額	-	8	34
5. 貸倒引当金の増減額(減少:)	8	11	4
6. 賞与引当金の増減額(減少:)	225	184	0
7. 退職給付引当金の増減額(減少:)	49	22	4,104
8. 役員退職慰労引当金の増減額(減少:)	644	50	48
9. 受取利息及び受取配当金	28	25	150
10. 支払利息	113	108	429
11. 為替差益	33	19	-
12. 為替差損	-	-	175
13. 持分法による投資損益(利益:)	3	1	267
14. 厚生年金基金脱退時特別掛金	-	-	978
15. 売上債権の増減額(増加:)	343	8,412	1,106
16. たな卸資産の増減額(増加:)	98	86	2,243
17. 仕入債務の増減額(減少:)	13	246	270
18. 預り金の増減額(減少:)	-	19	702
19. 長期未払金の増減額(減少:)	644	-	3,121
20. その他	231	187	713
小計	924	1,011	5,797
21. 利息及び配当金の受取額	28	25	150
22. 利息の支払額	14	24	408
23. 厚生年金基金脱退時特別掛金の支払額	-	-	978
24. 法人税等の支払額	16	0	15
25. 法人税等の還付額	-	-	15
営業活動によるキャッシュ・フロー	927	1,010	4,561
投資活動によるキャッシュ・フロー			
1. 有価証券の取得による支出	2,497	1,998	9,893
2. 有価証券の売却による収入	1,199	2,498	11,891
3. 有形固定資産の取得による支出	143	74	385
4. 有形固定資産の売却による収入	23	0	946
5. 投資有価証券の取得による支出	200	11	414
6. 投資有価証券の売却による収入	300	1	408
7. 定期預金の預入による支出	1,000	60	2,680
8. 定期預金の引出しによる収入	500	288	1,632
9. 少数株主からの子会社株式取得による支出	-	33	33
10. その他	66	34	238
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,884	575	1,231
財務活動によるキャッシュ・フロー			
1. 短期借入れによる収入	-	600	721
2. 短期借入金の返済による支出	-	360	1,307
3. 長期借入れによる収入	5,000	-	156
4. 長期借入金の返済による支出	64	126	392
5. 転換社債の償還による支出	-	-	7,936
6. 少数株主への配当金の支払額	-	94	94
7. 自己株式の取得による支出	6	12	87
8. 自己株式の売却による収入	1	17	46
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,930	24	8,893
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	19	175
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	2,152	391	3,275
現金及び現金同等物の期首残高	13,662	16,937	16,937
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	15,814	16,546	13,662

平成18年3月期 第1四半期業績概要 付帯資料

医療用医薬品等主要製品売上高

(単位:百万円)

	平成18年3月期(予想)		平成18年3月期 第1四半期	平成17年3月期 第1四半期
	中間	年間		
医療用医薬品	7,100	22,100	3,068	11,975
ペントシリン	1,950	3,800	895	856
トミロン	1,450	3,050	656	739
オゼックス	950	2,100	406	406
ルブラック	550	1,100	263	237
パシル	550	1,100	218	256
つくしAM散	350	700	166	179
タゾシン	300	550	110	101
ハロスポア	150	300	85	97
その他	850	2,600	266	371
技術料収入	-	6,800	-	8,733
医療用医薬品以外	200	300	81	107
単体合計	7,300	22,400	3,149	12,082
連結子会社	900	2,500	679	319
連結合計	8,200	24,900	3,829	12,402

新製品開発状況

国内開発

平成 17 年 7 月 29 日

開発段階	開発番号 または 商品名	剤形	薬効	特徴	備考
申請中	T-614 (コルバット)	経口剤	抗リウマチ剤	疾患修飾型抗リウマチ剤 (DMARD)。炎症性サイトカイン産生の抑制作用、免疫グロブリンの産生抑制作用を有しており、臨床試験で関節リウマチの優れた改善作用が認められた。 2003 年 9 月申請済み。	< 国内 > エーザイと共同開発 < 海外 > 南アフリカ: Phase a 終了 (自社) 韓国: 東亜製薬へ導出
申請中	TN-3262a (枕ヶ谷点眼液 0.3%)	点眼剤	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口剤「オゼックス錠」の点眼用剤として開発。ニューキノロン系点眼剤として初めて小児を対象とした臨床試験を実施し、有効性と安全性を確認した。また、点眼液として初めてクラミジア結膜炎 (トラコーマ) の適応症を申請。 2004 年 6 月申請済み。	< 国内 > ニデックと共同開発 大塚製薬と販売提携 < 海外 > 韓国: 東亜製薬へ導出
Phase	T-3811	経口剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	既存のニューキノロン剤とは異なる構造を有し、特に呼吸器感染症の多剤耐性菌を含む起炎菌に強い抗菌力を示す。また、安全性面では関節毒性が弱いことより、小児への適応の可能性も考えられる。	一般名: Garenoxacin < 国内 > 大正製薬と共同開発 < 海外 > 米国シリング・プラー社へ導出
Phase		注射剤			
Phase	T-588	経口剤	アルツハイマー型認知症・脳血管障害後遺症治療剤	神経細胞保護作用、神経突起進展促進作用を有している。アルツハイマー病を対象とした臨床試験を実施。 一方、緑内障にも有効性が期待される。	< 海外 > 英: Phase a 終了 (自社)
非臨床試験	T-5224 (AP-1 阻害剤)	経口剤	抗リウマチ剤	転写因子 AP-1 を阻害することにより、免疫異常だけでなく、関節破壊をも抑えることができ、関節リウマチの根本治療薬として期待できる。	科学技術振興機構からの国内開発委託事業
非臨床試験	T-1106	経口剤	抗ウイルス剤	C 型肝炎治療剤。HCV RNA ポリメラーゼに対し強い活性を示す。	
非臨床試験	T-2307	注射剤	抗真菌剤	既存薬とは異なる新規な作用機序を持ち、広範な抗真菌スペクトルを有する。また、耐性菌にも有効。	

海外開発

開発段階	開発番号	剤形	薬効	特徴	備考
申請準備中	T-3811	経口剤	ニュータイプのキノロン系合成抗菌剤	幅広い抗菌スペクトルを持ち、P R S P、M R S A などの耐性菌にも有効である。優れた体内動態で 1 日 1 回の投与。呼吸器感染症から、外科系感染症までの幅広い適応を持つ。合成抗菌剤だけではなくセフェム、ペニシリン、マクロライド等幅広い対照薬との臨床試験の結果、同等以上の優れた有効性、安全性が証明されている。米国で 2005 年後半申請見込。	< 導出先 > 米国シリング・プラー社
		注射剤			
Phase	T-817MA	経口剤	アルツハイマー型認知症治療剤	T-588 の神経細胞死抑制作用を強力にした化合物。また、神経突起進展促進作用も有しており、病態モデルで優れた有効性を示している。	< 海外 > 米国: 2005 年 7 月 Phase I 開始